

AGRI WORK POINT

アグリ ワーク ポイント

病害虫防除

7月から秋にかけては光合成が最も盛んになります。この時期の葉量は、樹勢維持や貯蔵養分蓄積に重要な役割を果たすため、来春に健全葉を多くつけるためにも、土壌中の養分管理、水分管理などを徹底しましょう。

病害虫が発生しやすいため、防除情報や茶園をよく観察し、適期防除を心掛けましょう。

①二番茶摘採後～三番茶萌芽期

チャノコカクモンハマキ、チャハマキの第二世代幼虫発生期です。

②三番茶萌芽期～開葉期

チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマは高温で乾燥した気候が続くと多発します。10～20日で卵から成虫になり、成虫でも20日以上生存するので、多発園は2回防除が必要です。また、降雨が多いと炭そ病、山間部ではもち病も多発します。開葉期と2～3葉期の2回散布が効果的です。

中切り更新園の処理

一番茶後に中切り更新をした茶園は、60～70日後にはかなりの再生芽が伸びています。再生芽をそのままにすると芽数が減るので、中切り面より5cm程度で2葉くらい残した位置で整枝しましょう。

【土壌と根の関係について】

物理性の良い土壌	①根をしっかりと支え、根が伸びるのに適当な硬さをもつこと ②透水性、通気性、保水性を兼ね備えていること
根の役割	①水分と肥料成分を土壌から吸収し地上部へ送る ②肥料成分、同化養分の貯蔵（特に中根太根で秋から冬） ③細根は、テアニンなどのアミノ酸を合成 ④地上部を大地に固定する
根の生育	①地温25℃程度で根と新芽の生育が旺盛、茶の品質は地温が低い方が良い（特に冬場） ②酸素と水分が必要 ③土壌の物理性 ④根の生育を阻害する亜硝酸や過剰施肥などの物質が無いこと

※土壌改良の参考資料としてご活用ください。



多くの病害虫に
要注意！

茶指導販売課 福手 裕三